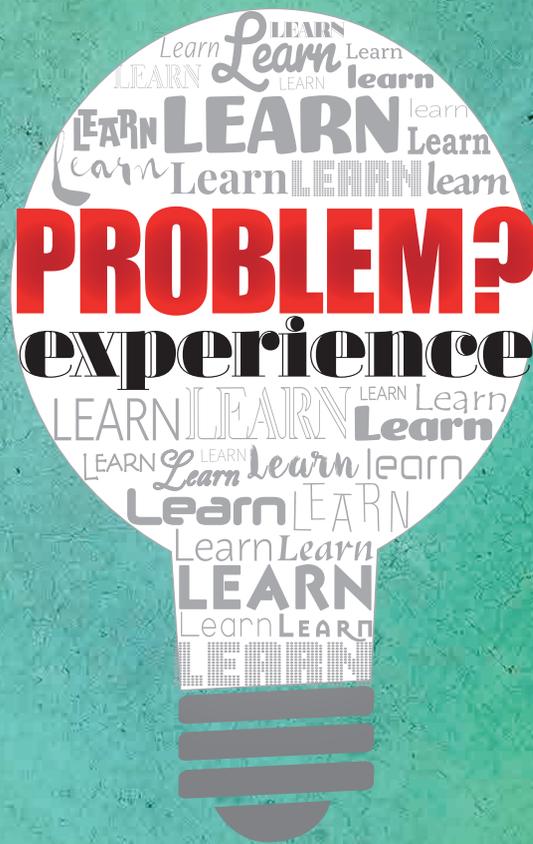


大規模災害を経験した 訪問看護師から学ぶ

何がいかされ、
何が課題となつたのか



難病をもつ人の支援に

はじめに

令和6年（2024年）1月1日に発生した能登半島地震をはじめ、その後も日本各地で続く地震や豪雨により、被害を受けられた皆さまに、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

また、支援にあたっておられる皆さまにも、どうか少しでも心が休まる時間がありますよう、お祈りいたします。

日本では、地震や豪雨などの災害が、いつどこで起こっても不思議ではありません。だからこそ、日頃からの備えが欠かせません。難病のある方は、医療機器の使用や日常生活の支援が必要な場合が多く、災害時にはより大きなリスクを抱えることになります。そのため、平時から、難病のある方の生活と医療を途切れさせないための計画を立て、実際に動ける備えにつなげておくことが重要です。2024年からは、訪問看護事業所において業務継続計画（BCP）の策定が義務化され、訪問看護師として災害時にどのように行動するかを、より具体的に考える機会が増えました。

本冊子では、大規模災害の経験や、日頃の備えを通して見えてきたことの中から、難病患者さんを支援する訪問看護において役立ったこと、そして浮かび上がった課題について共有したいと考えています。大切な自分自身の命を守りながら、患者さんやご家族の安心を支えていくために、皆さんと一緒に考えを重ね、次の一歩を見つけていければ幸いです。

目次

- I. 難病の特徴 _____ P.1
- II. 災害と訪問看護 _____ P.5
- III. 「訪問看護だからできたこと」と「残された課題」 _____ P.9
- IV. 訪問看護としてできること 訪問看護の取り組み例 _____ P.17
- V. 地域のしくみへとつなぐ 保健所の取り組み例 _____ P.23

能登半島地震のあと、困難な状況が続く中で、インタビューにご協力くださった皆さまをはじめ、本冊子の作成にご協力いただいたすべての皆さまに支えられ、本冊子をまとめることができました。

心より、御礼申し上げます。